

目的： 中学校技術・家庭科及び高等学校の家庭一般が男女共学履修となり、男女が共に学ぶにふさわしい教育内容の整備が必要である。特に被服領域は、従来の被服製作に重きをおいた指導から、衣生活の変化に対応して良い品・価値ある品を選べる総合的な能力を育てる被服領域の学習内容の検討が必要である。そしてすでに男女共に履修されている、海外で行われている家庭科の内容にも目をむけ、良い点は積極的に取り入れるべきである。

こうした観点から、本報ではオーストラリアの中等教育で行われている繊維製品とデザイン(Textiles and Design)という科目に注目し、その内容を検討し、日本の衣生活教育の改善を考えるうえでの基礎的資料を得る。

方法： オーストラリア、N. S. W. 州の教育局から出されている指導要領並びにテキストを基にその内容を解析する。

結果： オーストラリアの”繊維製品とデザイン”の特徴は、第1に衣服製作技術の体得ではなく繊維製品に関する科学的・美学的知識の習得、そしてその知識をもとにした消費者教育をめざしている点であると考えられる。第2に興味深いことは、繊維製品と社会という領域で時代のファッションに注目し、衣服が社会の中で人々に与える影響を考えている。

第3に今後の日本の被服製作実習を考えるうえで参考となるのが、男女共修のこのコースにおける被服のデザインと製作という内容である。それは単なる手芸と裁縫ではなく常に他領域とむすびついた理論的裏づけの基に成り立っている。